

《山形村》 山形村ボランティアセンター

〔センターの基本事項〕

所在地	〒390-1301 東筑摩郡山形村4520-1			
電話 F A X	0263-97-2102	0263-97-2108		
電子メール	vc-yamagata@yamagata-shakyo.jp			
H P アドレス	http://poponet-yamagata.or.jp/			
職員数	正規	2名	嘱託	—
	臨時	1名	その他	—
開所日と時間	平日 8:30～17:30 土日を除く			
情報誌	まほろば（社会福祉協議会広報） 年4回発行			
来所者数	—			

〔センターの運営方針・指針等〕

山形村におけるボランティア活動を推進し、ボランティア活動に関する住民の関心や理解を高め、ニーズを積極的に開拓するとともに、活動に当たって必要な援助と連絡調整をおこなう。

〔センターの拠点整備〕

活動場所の提供	<input type="radio"/>	無料、対象者：ボランティア団体等
フリースペースの設置	—	
資機材等の貸出	<input type="radio"/>	コピー機（有料）
福祉体験器具等の貸出	<input type="radio"/>	車いす、アイマスク
登録グループの専用ポストの設置	—	
情報掲示板・チラシ提供スペースの設置	<input type="radio"/>	

〔ボランティアセンター運営委員会〕

組織の有無	有	規約	無
名称	—		
設立日	平成15年4月1日		
委員構成	地域福祉推進委員が兼務 12名		
事業への関わり	関わっている。		
工夫点	個別事例をあげて方針等を検討している。		
課題点	—		

〔ボランティア連絡協議会〕

組織の有無	無	規約	無
名称	—		
協議会構成	—		
工夫点	—		
課題点	—		

〔財源〕

人件費	独自財源	共同募金	委託料・補助金	民間助成金	その他
	—	—	—	—	—

事業費	独自財源	共同募金	委託料・補助金	民間助成金	その他	社協会費
	○	○	○	—	—	—

〔事業計画・センター運営等について〕

○事業計画について 毎年度の事業計画について、どのように計画を立案していますか？		担当部署・担当職員間で事業計画を立案している。運営委員会や連絡協議会等の意見を集約し計画を立案している。
○センターにおける中長期計画について 独自の中長期計画・アクションプラン等を作成していますか？		—
○アドバイザー等について センターの運営や事業実施に関して、アドバイザー等の助言者はいますか？		役職：松本大学 教授 氏名：白戸 洋 氏
○社協VC以外の中間支援機関について 社協が運営するVCとは別に、他団体が運営する中間支援機関が地域内にありますか？		—
○連携するNPOや関係機関について VCの事業・運営において連携・協働しているNPOや関係機関等がありますか？		
連携・協働先		連携・協働内容
NPO法人ローカルコミュニティ		防災関係等
—		—
—		—
○センターの強みと弱みについて		
《強み》 地域住民の支え合い活動を支援できる。		《弱み》 個別のニーズ把握が不十分である。

○VC見取り図

<p>○他市町村社協ボランティアセンターについて センター運営や事業実施に関して、他市町村社協VCに聞いてみたいことや知りたいことなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の個別ニーズや生活課題の把握方法について興味があります。 ・ボランティアを切り口とした個別支援等、ボランティアセンターのコーディネートによりその方の生活を支える方法や取り組み等について知りたいと思います。
--

ボランティアセンターの重点事業について

事業名	たてべ子どもひろば
目的	長期休業中の小学生の居場所作り、他世代との交流、地域での子育て・見守りを目的とする。
開催頻度	夏休み 5日間、冬休み 1日
内容	地域のボランティアや学生で実行委員会をつくり、小学生を対象とした様々な体験を含めたプログラムづくりをおこなう。 ブルーベリー狩り、じゃがいも掘り、カレーづくり、流しそうめん等。 体験だけでなく、宿題の時間もつくっている。
対象者	村内の小学生
企画のポイント 事業成果	年々参加者が増えている。参加者が中学生になり、今度はボランティアとして関わってくれるようになってきている。 ボランティアの年齢層も幅広く、中学生、高校生、大学生、地域の方等様々な方に関わっていただいている。
参加者の声や その後の動き など	参加者が増えているため、複数箇所の開催等も検討している。

事業の様子



事業名	子育てサロン
目的	子育て中の親子の支援、サロン活動
開催頻度	月1回
内容	地域の公民館に集まり、子育て中の親子等を対象にサロン活動をおこなう。地域のボランティアや学生にも参加していただき、子どもとボランティアが遊んでいる間、お母さん達の話をボランティアが聞く等でリフレッシュできる時間をつくっている。また、プール遊びやみそづくり、読み聞かせ等の企画もおこなっている。
対象者	子育て中の親子、ボランティア等 誰でも参加可
企画のポイント 事業成果	地域のボランティアより「子育てサロンをやりたい」との相談からはじまった。主に未就園児の親子の参加が多く、ロコミ等でひろがっている。
参加者の声や その後の動き など	特に双子のお母さんからは「家では同時に2人と遊ぶのが大変なので、ここへくると助かる」と話している。子育てが一段落した方が「自分も大変だったから」「助けてもらったので恩返し」とボランティアとして関わってくれている。

事業の様子



事業名	有償在宅福祉サービス「たのみま処」	
目的	「ちょっとしたお手伝いがあれば住み慣れた家で安心して生活できる方」と「地域のために空いた時間にちょっとしたお手伝いをしてくださる方」とが会員となり、「地域の支え合い・助け合い」のサポートをおこなう事業	
開催頻度	随時	
内容	<p>依頼会員、協力会員にそれぞれ登録していただく。 依頼があった際に、コーディネートをおこなう。</p> <p>ゴミ出し・買い物の付添等、介護保険や既存のサービスでまかなえないニーズ等への支援をおこなっている。</p>	
対象者	村内の独り暮らし高齢者、障害者世帯、高齢者世帯等	
企画のポイント 事業成果	依頼会員の登録申込があった際はコーディネーターが訪問し、直接アセスメントをおこなう。	
参加者の声や その後の動き など	事業をはじめたばかりなので、ニーズ把握や協力会員の発掘が課題となっている。	
事業の様子		
	事業の様子の写真等を添付してください	事業の様子の写真等を添付してください